



## 図書館改修 特集号

- ◎館長の挨拶  
図書館全面改修と館長退任にあたって . . . . . 青木 守弘 . . . . . 2
- ◎図書館からのインフォメーション  
新装図書館がオープンしました! . . . . . 3  
図書館業務システム更新に伴い蔵書検索 (OPAC) が生まれ変わって高機能に . . . . . 3  
新図書館紹介 . . . . . 4  
新入生のための図書館利用 Q & A . . . . . 6
- ◎学生の読書室～私が選ぶこの一冊～ (第10回) . . . . . 8
- ◎教育実践資料室オープン . . . . . 永田 英治 . . . . . 10
- ◎特集記事 教職大学院と図書館 ～現職教員にとっての～  
「子どもから学ぶ」拠り所となる林竹二資料一宮城教育大学附属図書館の宝 . . . . . 吉村 敏之 . . . . . 11  
僕の図書館利用法 . . . . . 市岡 良庸 . . . . . 12  
「気づき」を「言葉」にのせて . . . . . 佐藤 陽子 . . . . . 13  
教職大学院院生と図書館 . . . . . 二ノ神 聡 . . . . . 14
- ◎教科書展示企画に携わって . . . . . 菅原 淑子 . . . . . 15
- ◎平成21年度開館カレンダー . . . . . 16

## 図書館全面改修と館長退任にあたって

附属図書館長 青木 守弘

図書館をどのように改修するかは、事務局施設企画職員はむろんのこと、図書館職員の総力を上げて進められた結果であり、お力をいただいた関係者の皆様に深く感謝する次第です。工期は、西側部分を1期(8~12月)、東側部分を2期(12~3月)に分けて行われ、4月には全面オープンとなります。エレベータを新設、全館冷暖房を装備した快適な閲覧環境が実現しました。従来に比べ、館内は広く明るい空間に生まれ変わっております。館内トイレも今様の清潔なものになりました。自然光が入る正面外観や、明るい色調の内装は心地よい印象を与えております。

基本的には従来の機能を維持しておりますが、1・2階の閲覧室をはじめとして、いずれもゆとりのある利用しやすい空間に改修されました。新たに開設するもののひとつに「教育実践資料室」があります。当面の資料としては、各方面から公開を求められている本学の先達、林 竹二、斎藤喜博、高橋金三郎の3氏の映像を含めた著作資料などを手始めに、教育実践資料を集めて提供するとともに、これらを活用したミーティングなどにも利用可能な空間となります。また、学外利用者や特別な目的への便宜として、1・2階それぞれにゲスト・ルーム(研究個室)を設け、館内資料による調査研究などに利用していただきます。

学生の大学図書館利用が諸外国に比べて極端に低く、学生を図書館に呼び込むための方策が、図書館関係の会議で話題になります。隣国の韓国では毎朝開館前から長蛇の列をつくって待っている光景が見られると言われます。そこまではいかなくとも、今回の図書館改修を契機に、図書館利用が飛躍的に伸びることを期待したいものです。授業力の向上にむけた大学教員へのFDも大事ですが、その努力とは裏腹に、自ら深く学ぶことにつながらない「その場完結型授業」となっては具合が悪いことです。図書館を活用した新たな授業の創出が求められるところでもあります。

さて、私ども、図書館長を4ヶ年間(2期)担当し、この3月に退任となりますので、振り返る言葉が必要になりましょう。今にして思えば、日常の図書館業務でも精一杯なのに、これと並行して、しんどい事業をよくも強引

に進めたものだと思います。関係講座の先生方、図書館運営委員、そして図書館職員の力を結集し、本学独自の「教科書特別展—歴史のなかの教科書」を3ヶ年にわたって開催することができました。「国語・修身」、「算術・算数・数学」、そして「理科」と続け、次に「社会」を計画していたのですが、改修工事が入り次年度送りとしております。「社会」は内容的にも多岐にわたり難しい課題を抱える分野です。すでに、社会科教育講座・本郷隆盛教授を中心とする準備委員会を立ち上げて検討を進めてきております。第4回目の「社会」教科書特別展にご期待ください。

現在、国立系大学の図書館で共通な課題となっているものに、ひとつは厳しくなる大学財務事情からくる図書館経費の削減により、図書館の生命である図書整備が危うくなっていることです。一時期、学生授業料の値上げ分を図書整備費にあて、メリットとして還元すべく各大学は努力してきた経緯があるのですが、現在はそうしたことも難しくなるほどの深刻な状況に追い込まれております。

もうひとつは、教員に配分される研究費の大幅削減によって、教育研究上必須とする学術雑誌の購入経費が確保できなくなっていることです。一方では、これまでの冊子体の学術誌に代わって、電子ジャーナルの普及がめざましく、この時代の流れに遅れることはまさしく教育研究の停滞を招くことでもあります。しかしながら、年々タイトル数が増し、値上げが続く電子ジャーナル経費を捻出することは容易でなく、本学のみならず、いずれの大学でも図書経費を更に圧迫している要因になっています。いずれにせよ、今後、学術情報は電子化された情報媒体にとって替わることには明らかですので、本学においても意識的に早期の方向転換を行うことが望まれます。

今日、大学運営面での財源不足が顕在化してきており、今後の図書館充実においても難しい局面が立ちはだかっています。大学の重要な社会的責任として、何はさて置き、学術情報基盤である図書館の整備と維持には最大限の努力を払わなければならないことです。関係当局にご努力をお願いしたい。

## 図書館からのインフォメーション

### 新装図書館がオープンしました

今年3月に図書館の耐震改修工事が終了しました。新しくなった図書館の様子を紹介しましょう。

ベージュ色の外観や色鮮やかな内装が、広くて明るい印象を与えています。また、冷暖房が完備されエレベータが新設されるなど、館内設備が一層充実しました。

1階入口には、利用者が飲み物を手に休息できる「リフレッシュコーナー」、グループ発表などに使える「展示コーナー」、自習やグループ研修に使える「多目的閲覧室」、カウンター、図書館事務室があります。1階の奥は閲覧室となっており、児童書・絵本・人文科学・社会科学の本、大型図書や参考図書があります。また、視聴覚資料が利用できるAVコーナーもあります。

2階の閲覧室には、社会科学・自然科学・芸術・言語・文学関連の本が並んでいます。また、2階にはほかにも、「新着雑誌コーナー」、雑誌のバックナンバーが並ぶ「雑誌書庫」、歴史的価値のある資料を収めた「貴重資料室」、パソコンやプロジェクターを配置した「マルチメディア室」、学内の教育実践資料を収集展示する「教育実践資料室」があります。

次ページに館内図と写真を載せましたので、ご覧ください。

### 図書館業務システム更新に伴い

## 蔵書検索（OPAC）が生まれ変わって高機能に！

平成21年2月に行った図書館の業務システムの契約更新に伴い、蔵書検索（OPAC）も新しく生まれ変わりました（RICOHの『LIMEDIO』という名前です）。

新生OPACは、ログインすれば自分専用の図書館ができあがる「マイライブラリ」機能が充実しています。借用中の資料の確認、資料の予約、学外からの資料取り寄せがOPACを使いながら簡単にできます。また、検索した資料のデータを、「レポート用」、「卒論用」など自分で作成したフォルダごとに保存したり、登録したメールアドレスに送信したりすることもできます。

「マイライブラリ」はOPAC同様、学内だけではなくインターネットが使える環境ならいつでもどこでも使えます。今後折にふれて詳しくご紹介していきますのでぜひご利用ください。



# 図書館からのインフォメーション

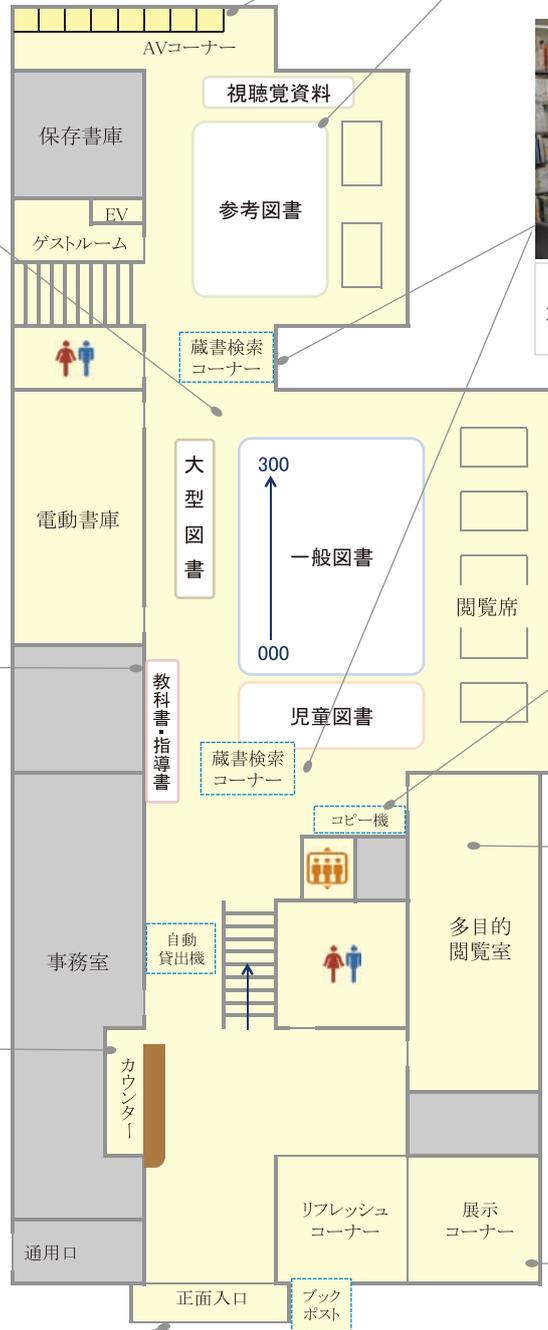
## 1F

＜AVコーナー＞  
CD、ビデオ、DVDが視聴できます。

＜参考図書コーナー＞  
事典・辞書類があります。



＜閲覧室＞  
カウンターから閲覧室を見た様子。  
奥には主に人文・社会科学関係の  
図書が並んでいます。



＜蔵書検索コーナー＞  
本や雑誌が検索できます。

＜コピー機＞  
コイン式のコピー機が2台あります。  
うち1台はカラーコピー機です。



＜多目的閲覧室＞  
普段は自習室として使えます。  
申し込めば、ゼミなどでも使えます。



＜リフレッシュコーナー＞  
＜展示コーナー＞  
リフレッシュコーナーは、ソファーや飲み物の自販機があり、休憩場所として使えます。  
展示コーナーは、サークルなどの作品展示に使えるスペースです。



＜教科書・指導書＞  
現在小・中・高校で使われている教科書や指導書があります。



＜カウンター＞  
本や雑誌の貸出・返却はこちらで。  
宮教大図書館にない資料の取り寄せや、資料探しのご相談もどうぞ。

＜正面玄関＞  
ページの外観が映えます。右手にはブックポストがあり、閉館のときも本が返せます。



## 図書館からのインフォメーション

2F

＜ゲストルーム＞  
研究用個室。1階にもあります。



＜楽譜＞  
約2000冊の楽譜が集められています。  
もちろん貸出も可能です。



＜雑誌書庫＞  
雑誌のバックナンバーがあります。

＜貴重資料室＞  
古典資料など、歴史的価値の高い資料  
が保存されています。



＜マルチメディア室＞  
パソコンが24台あります。  
ガラス張りの明るい部屋です。

＜蔵書検索コーナー＞  
本や雑誌が検索できます。



＜閲覧室＞  
2階には自然科学・芸術・言語・文学関係  
の図書が並んでいます。  
南側には広々とした閲覧席があります。

＜コピー機＞  
モノクロのコイン式コピー機が1台あ  
ります。



＜新着雑誌＞  
発行されて1年以内の雑誌が並んでいま  
す。最新号でなければ、3日間貸出でき  
ます。



3F



＜3階電動書庫＞  
過去の小・中・高校の教科書・指  
導書があります。

## 図書館からのインフォメーション

### 新入生のための



## 図書館利用 Q & A



大学に入れば避けては通れないのが試験、レポート。4年生になれば卒論だって書かなければなりません。そんな試練(?)も図書館があれば大丈夫。たくさん本、雑誌、情報を集めて、みなさんの勉強をサポートしているのが図書館なのです。

「でも、図書館のことがよくわからない」という新入生のみなさんの疑問にお答えしましょう。

### Q 1. 図書館にはどんな本や雑誌があるの?

**A 1.** 人文科学・社会科学・芸術・自然科学の本と雑誌があり、特に教育学関係の本と雑誌が充実しています。

幼児教育などに必要な児童書や絵本、学校教育を知る上で重要な小・中・高校の教科書・指導書を集めているのが、宮教大図書館の大きな特徴です。

### Q 2. 図書館でどんなことができるの?

**A 2.** みなさんの学習をお手伝いするいろいろなサービスが利用できます。

★本や雑誌の貸出

★パソコンでWORD、EXCEL、インターネットの利用

→2階マルチメディア室にパソコンがあります。

館内に自分のパソコンを持ち込むこともできます。ただし、無線LAN利用には、情報処理センターから配布されたIDとパスワードが必要です。

★自習

→1、2階の閲覧席や多目的閲覧室が利用できます。

★本・雑誌・論文の検索

★CDやDVDの視聴

→1階のAVブースをご利用ください。自分のCD、DVD等も視聴可能です。

★他の図書館からの資料の取り寄せ

→カウンター、またはWebから申し込みます。

★コピー機(カラー・モノクロ)の利用 . . . などなど

### Q 3. 本や雑誌の借り方や返し方を教えて

#### A 3. ★借りる時

学生証と借りたい本・雑誌をもって図書館1階カウンターへ。

表紙にバーコードが貼ってある資料は、自動貸出装置でも貸出できます。

#### <貸出期間と冊数>

	学部1～3年生・研究生・ 科目等履修生・特別聴講学生	学部4年生・院生・専攻科生
貸出期間	2週間	1か月
貸出冊数	5冊	10冊

★返すとき

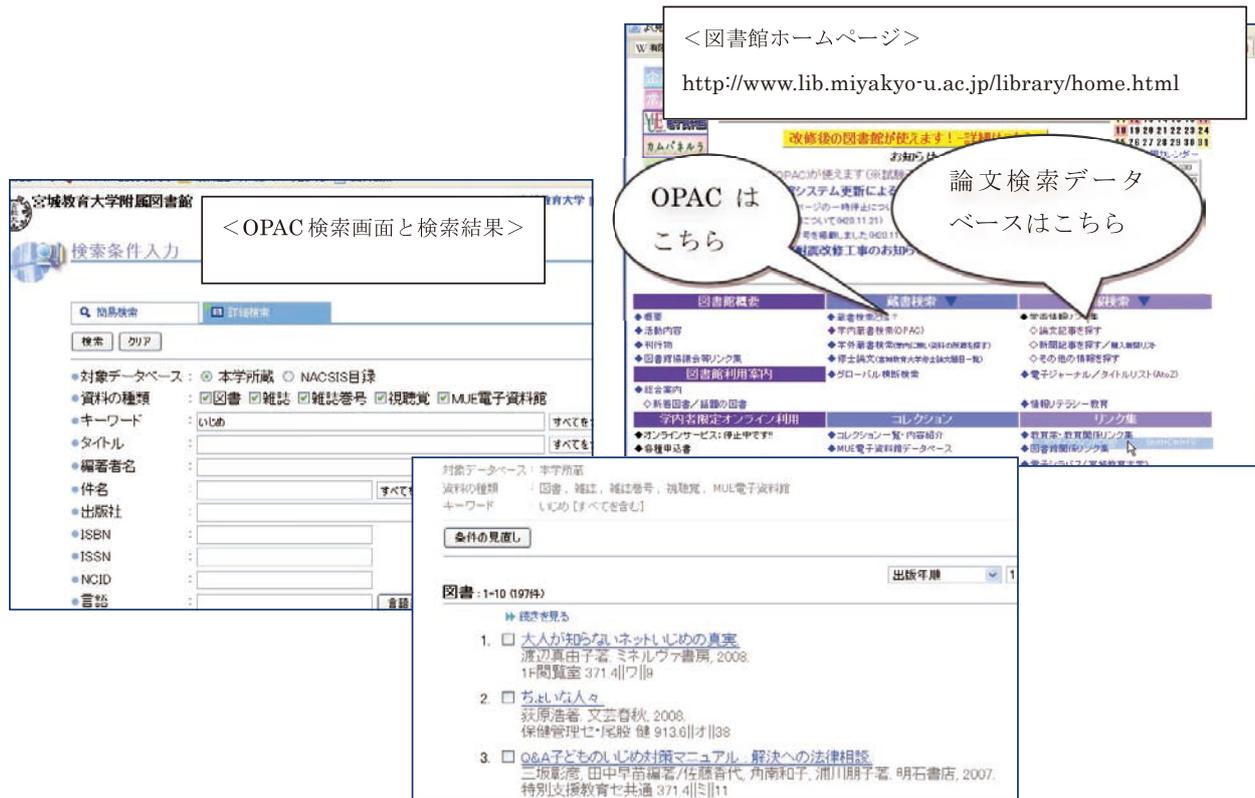
図書館1階カウンターへ資料を返してください。

図書館が閉まっているときは、玄関外のブックポストへ資料を入れてください。

Q 4. 本や雑誌はどうやって探すの？

A 4. 蔵書検索システム (OPAC) で、キーワード、書名などから検索できます。

OPACは図書館ホームページの「学内蔵書検索 (OPAC)」から、または図書館内に5台あるOPAC専用パソコンから利用できます。



Q 5. 雑誌に載っている論文を探したい

A 5. 図書館ホームページの「論文記事を探す」に論文検索データベースへのリンクがあります。代表的な論文検索データベースとして、「CiNii」「雑誌記事索引」などがあります。

Q 6. 図書館の中で飲み物や食べ物はだめなの？

A 6. 館内では原則飲食禁止ですが、次の場所では飲食できます。

- ★ 1階多目的閲覧室・・・飲み物のみ可。食べ物は不可。
- ★ 1階リフレッシュコーナー・・・飲み物、食べ物可。飲み物の自動販売機あり。

Q 7. もっと図書館のことを知りたいのだけど？

A 7. 新入生のみなさん向けにいろいろな企画を用意していますので、ぜひ参加してください。

- ★ 図書館ツアー・・・図書館員の説明を聞きながら、館内を実際に歩きます。
- ★ 講習会・・・「新入生ガイダンス」「資料の探し方講習会」などの講習会が開かれます。図書館の利用の仕方や、本、雑誌、論文の探し方などが学べます。

# 第10回 学生の読書室 ～私が選ぶこの一冊～



## 『女性のためのやさしい数学：実生活ですぐ役立つ！』

(木村美紀著、秋山 仁監修、ブックマン社、2008年)

数学コース1年：坂 本 紗都美

この本は、生活の中で使える、簡単な数学の知識を紹介しています。数学を活用すれば、こんなに便利になるってことを教えてくれます。生活で気になる数学（半身浴—何度も見に行かず、お湯をためる方法）、買い物とファッションの数学（エレベーターとエスカレーター—どっちに乗ると目的の階に早く着けるか、スカートの選び方—キレイに見える洋服を探す方法）など、その他にも、家庭や大学、オフィスでの数学や友達や恋人との数学など、4つの項目に別れていて、それぞれに興味深い内容が書かれています。特に私がおもしろいと感じたのは、お風呂のお湯を1回見に行くだけで、自分の好きな水位にお湯を溜める方法でした。3分間のお湯の高さを測って、あとは自分の好きな高さに合わせて掛けていけばいいというものです。

例) 浴槽に35cmの高さまで水をくみたい。

3分後の水位は5センチ

$35(\text{cm}) \div 5(\text{cm}) = 7(\text{倍})$

$3(\text{分}) \times 7(\text{倍}) = 21(\text{分})$

このような感じで、いろいろな生活の場面で私達が普段勉強している数学を活用できるのだと分かり、面白いなと思いました。大学にきて、難しい数学ばかりでちょっと数学に対するの興味が薄れてきていたところで、この本を読んで少しまた数学は面白いなと感じることができたのでよかったです。ぜひみんなにも読んでほしいです。

## 『絵とき ゾウの時間とネズミの時間』

(本川達雄文、あべ弘士絵、福音館書店、1994年)

幼児教育専攻3年：鈴木 美 咲

「長生きは良いこと、命が短いのはかわいそう。」私たちはそんなイメージを抱きがちである。本当にそうだろうか？この本を読めば、今まで自分がいかに偏ったものの見方をしていたのかに気付かされる。そして同時に、新たな世界が見えてくる。

さて、何よりもこの本が面白い理由は、「科学の本」であるということである。体の大きさと食べる量の計算から始まり、筆者の語るものごとは、全て客観的事実に基づいているのである。データとしても興味深い結果に、ゾウとネズミの視点で考えた[時間]の捉え方。大きくてゆったりしたゾウ。小さくてチョコマカしてるネズミ。でも、一生に心臓がつつ回数を調べると意外なことに、その数はほぼ同じなのである。それぞれがそれぞれの人生を生きているということは、「どれが良いか」という尺度では測れないものなのだ。

「大きいと、いいことがある。小さいといいことがある。」と、この本には書かれている。大切なのは時間の長さではなく、その時間をどう生きるかという「生きる姿」なのではないだろうか。この本は私にそんなことを語りかけてくれる。

客観性と主観性という2つの視点を巧妙に取り入れ、それらを非常に分かりやすく提示している、どの世代にもお勧めしたい本である。

ここは学生の皆さんが最近読んだ本、印象が強かった本、お勧めの本などについて自由に選んでいただき紹介してもらおうコーナーです。図書のみとし、雑誌は除外しています。

たくさんのお原稿が集まりました。ありがとうございました。

いただいた原稿を編集委員会で選定し掲載させて頂きました。

今後もこの企画を継続していきますので、皆さんからの投稿をお待ちしています。

ここに紹介する本は図書館入り口の書架に「学生の読書室」として配架しています。

## 【原稿大募集】

次号発行は7月の予定です。

名前、所属、学年、連絡先と、紹介する本の書名、著者名、出版社を記入の上、400字以内で、図書館カウンターにフロッピーディスクで、または下記アドレスへメールでお送り下さい。

尚、「こもれび」の記事は図書館のホームページでも公開されます。

[tojokanri@staff.miyakyo-u.ac.jp](mailto:tojokanri@staff.miyakyo-u.ac.jp)

図書館に所蔵していない図書については、(学生希望図書として) 図書館に購入希望を出していただくことも出来ます。

## 『もし電話がなかったら』

(佐藤卓二著、勝又 進絵、筑摩書房、1986年)

学校教育専攻3年：大 関 順 子

「もし電話がなかったら」ということを考えたことはあるだろうか。

いまや携帯電話は、一人一台は必ず持っているという時代。小学生でさえ持っているのである。私にとって携帯電話はなくてはならないもの。友達や家族と連絡をいつでも取り合え、情報を常に得ることができ、就職活動にも使える貴重な代物である。それが無いということを想像することがまず難しい。

本書では、「電話がない時代の、遠くにいる相手とのコミュニケーション手段」から「電話ができるまで」が書かれている。電話がない頃は、煙や火を使い合図を送った。次に文字が生まれ、飛脚や伝書バトを使って文を送る。そして電信機ができ、電話ができた。煙や火を使って伝言を送った時代を考えると、今はなんて便利な世の中になったのだろうか、改めて電話を発明したベル、科学の発展に感謝したくなる一冊だ。最初に普及した電話から携帯電話への発展を知ることができる本も探してみたくなった。

## 『科学偉人伝』

(ムロタニ・ツネ象著、くもん出版、1997年)

理科教育専攻3年：高 澤 健 之

「宇宙って何だ。」「全てのものは何からできているのか。」「空を飛びたい。」「宇宙に行ってみたい。」これらの疑問、思いを生まれてから一度も持ったことがない。なんて人はおそろくないでしょう。そんな誰でも抱く疑問から、現代の科学の基礎を作り上げた偉大な人物たちのことが、この本では漫画で分かりやすく語られています。

この本に登場する偉人は全部で42人。アリストテレスやデモクリトスなどの紀元前の偉人から、地動説のガリレオ・ガリレイ、相対性理論のアルベルト・アインシュタイン、などの有名人まで、幅広く紹介されており、そのなかには、杉田玄白ら9人の日本人も含まれています。その誰もが困難や失敗に屈せず、試行錯誤しながら自分の研究を続けていき、ときには命を顧みないほどの情熱を私たちに見せてくれます。

後世に名を残すほどの大発見をした彼らについて、結果と名前しかあまり知られていないというのが現実ですが、結果だけでなく、どれほどの努力があったかを知るのも面白いものだと思います。そこから学べるものも、非常に大きいと思います。

歴史に残る偉人たちの生涯と大発見は、どのようなものだったのでしょうか。それを分かりやすく教えてくれる、お勧めの一冊です。

## 『人間関係が10倍よくなる「聞く技術」』

(福田 健著、角川SSC新書、2008年)

自然環境専攻4年：杉 岡 昌 治

3年生の2月、就職活動をしていた時期にこの本とであった。コミュニケーション能力の向上の参考にできればと考えたのだ。

「話が通じない」「わかってもらえない」、こういったコミュニケーションの障害は大半が「聞く」ことの認識不足、そして「聞く技術」の未熟さにある。そのことに気づかせてくれた一冊である。

思い当たることがあるのではないだろうか。「相手の話し方が下手なために、聞こうとしなかったことは?」「自分の話すことを考えていて、相手の話が聞けなかったことは?」「人の話を聞くと、腕組をしたり無表情だったりするとは?」自分には当てはまる部分が多かった。しかし、この本を読み終えたとき、就職活動の面接における不安はほとんどなくなった。

この本の中でのなるほどと思ったフレーズがある。「よく聞く人はよく学ぶ人」「異なる意見を聞くことで視野が広がる」「聞き上手こそ、本当の話し上手」社会に出ていく上で心に留めておきたい言葉だった。何かに迷ったとき、もう一度この本を読みたいと思う。

## 『科学と方法』

(板倉聖宣著、季節社、1969年)

理科教育専攻4年：猪 俣 真 弘

今日、「科学」や「科学的」という言葉が世に溢れています。具体的に「科学」そのものについて述べられている本はなかなか見つけられません。『科学と方法』はそんな「科学的な考え方とはどういうものか」という疑問に答えてくれる一冊です。

高校生や子どもの親を対象にしたコラムがあって読みやすく、かつ板倉さんの科学史研究に基づく認識論も掲載されていて、本格的な論文の内容にも触れることができます。

1章では「科学的な考え方」について、2章では板倉さんの科学史研究と認識論について、そして3章では科学教育として「仮説実験授業」についてそれぞれ記されています。科学者達がどのように考えて、科学を築き上げてきたのかという科学的認識の成立（「科学は社会的認識である」、「仮説一実験によって科学的認識が確かめられる」）について知りたい方や、板倉さんが提唱した「仮説実験授業」の根本にある理論を学びたい方にお勧めします。

# 教育実践資料室オープン

永田 英治

図書館の改築にともない新しいスペースが設けられました。学校教育や社会教育の実践・研究をバック・アップする、宮城教育大学の教育研究の成果・遺産を公開しようという資料室です。

この資料室には、授業研究や教科教育研究で実績をあげた宮城教育大学の先達の業績がおさめられます。資料は、刊行された本だけでなく、ガリ版印刷やタイプ印刷された研究報告、学習指導案、教育実践報告、写真・ビデオ記録に及びます。これらの資料は、教育研究や授業研究に活用できるのはもちろんのこと、教育実践を学びたい、教育実習の参考にしたいという人にも活用されると思います。また、そうなるように、資料の収集、展示の方法を工夫していきたくと思っています。

資料室新設にあたって、まず、林 竹二（1969～1975年学長）、斎藤喜博（1974～75年教授）、高橋金三郎（1965～80年教授）にかかわる教育実践・研究資料を公開します。ソクラテス研究、田中正造研究などで知られる林は、斎藤の影響を受け、全国の小学校などをめぐって対話する授業を行なっています。高橋は、授業分析から理科教育の数々の提案を行い教授学研究へと進みましたが、「授業の見方」を斎藤に学んでいます。斎藤は島小学校の実践研究をもとに教授学の構築に取り組みました。

この3人のつながりは、宮城教育大学の歴史の中で、「宮城教育大学附属授業分析センター」の1974年設置で実を結びました。1971年に東京学芸大学、北海道教育大学、愛知教育大学、福岡教育大学で、「教育工学センター」の設置を決めたのをはじめとして、同工学センターの設置があいつぎました。そ

の名が示すとおり、リスpons・アナライザーを設置した教室、電算機、視聴覚機材をつかった教育の研究をめざしたのです。その中であって、宮城教育大学だけは、「授業を研究対象」にし、「授業を創造的な実践としてとらえ」、従来の教育方法学とは異なり「教育内容と教育方法を分離」せずに研究することが唱えられています（「授業分析センターの設置計画とその任事について」『広報』24号、1974）。つまり、斎藤が取り組んでいた「教授学研究」と、宮城教育大学のセンターにおける研究の「対象・方法・スタイル」が同一だとされたのです。

その「教授学研究」の取り組み、研究成果を紹介して、資料室開設を飾ろうというのが今年度の図書館運営委員会のもくろみです。（それら多くの資料は「授業分析センター」にあったものです。）もちろん、宮城教育大学の歴史、前史にまでさかのぼると、全国の教育実践をリードしてきた数々の研究成果がたくさんあります。そうした資料を収集・整理し、適宜展示したいと思っています。ご意見、ご協力をお願いします。

私の学生時代（1968年入学）は、「理科教育学が新たな学問分野として脚光をあびるかもしれない」という期待に胸を膨らませた時代です。当時、理科教育学研究のエキスパートになろうと志した若手研究者がたくさんいたのです。そう期待させたのは、板倉聖宣が提唱した「仮説実験授業」と、高橋金三郎らの「極地方式」の授業でした。そして、教授学研究を唱えた「授業分析センター」の設置に、大いなる期待を寄せたのです。その実践資料の収集・整理、展示の企画に加わることができたのは、望外の幸せです。

（理科教育講座）

特集記事：教職大学院と図書館 ～現職教員にとっての～

## 「子どもから学ぶ」拠り所となる林竹二資料 —宮城教育大学附属図書館の宝

吉村 敏之

教師の専門性を高める指針となる資料が、宮城教育大学附属図書館には豊富にある。特に、1969年6月から75年6月まで学長をつとめた林竹二が遺した資料は、本学の宝である。なかでも、全国各地の小・中・高校で行った「授業」に関する資料は、貴重な財産である。自らの実践から「子どもはみんな勉強したがっている」との確信を得て、授業を「子どもが持っているそれぞれの個性的な、固有のたから（可能性）を、引き出す作業」とした、林の思想は、時代を超えて、教職のあり方を問う。「子どもの事実」に拠って教育を探求する林の姿勢は、教師教育の基軸となるべき「臨床的な教育の学」の創造にむけた実践でもある。注目すべきものをいくつか示す。

### ・授業「人間について」の構想メモ

「授業」を「子どもたちだけでは到達できない高みにまで、自分の手や足を使って登って行くのを助ける」仕事ととらえた林は、授業を「きびしく」組織した。枠に子どもをはめる指導案は否定した林だが、主体的で持続的な問題の追求を促す筋立てを入念に考えていた。メモからうかがえる。4年生の子は「学長先生の授業の教え方はうまい。それは大きく分けて、よく考える時間をくれるし、こまかく切りぎむところまで心を入れ、よくわかりやすく説明し、よけいなところはぶき方もうまいからです」と、感嘆している。

### ・林の授業に対する子どもたちの感想

授業への感想は、林にとって、子どもの「生命の証」であり、「子供たちの内側をのぞかせてくれる小さい窓」であった。教育を学ぶ拠り所でもあった。「授業に関するすべてを子どもから学んだ。教師たちからは、まして教育学者からは、何一つ教えてもらうことはできなかった」と、林はしばしば言った。感想を丹念に読んだ跡がある。感想には、赤鉛筆の線が引かれ、付箋が貼られている。感想とともに、小野成視カメラマン撮影の写真も、子どもの集中を証明する。

### ・湊川高校の教師との間で交わされた書簡

林は、70歳を過ぎて、教育の「根本」を

問い直した。兵庫県立湊川高等学校定時制の生徒たちとの出会いが契機である。差別を受けて困窮した生活を強いられ、義務教育から切り捨てられた生徒の中に、学ぶことへの「はげしい飢渴」を発見した。「日本の一般の公教育への絶望を決定的にすると同時に、改めて人間と教育への信頼をよみがえらせ、人間が人間らしく生きる力としての教育の可能性を見ることの出来た思いを深くしている」と、自己をよみがえらせ、つくり直す「学問」の機会を、林は得た。「湊川に入る」という言葉を使うほどの没入ぶりである。足尾鉍毒事件の際に谷中村に「入って」人々と一緒にたたかった田中正造（林の思想の糧でもあり、『田中正造の生涯』講談社現代新書を著した）に、自らをなぞらえた。

### ・『教育の再生をもとめて—湊川でおこったこと』（筑摩書房）の原稿

湊川における教育の真実を伝えようとする、林の並々ならぬ意志を感じる原稿である。言葉を吟味して何度も手が入っているにもかかわらず、短期間でまとめられた。1976年10月に湊川高校で講演した直後、林は病に倒れる。1977年2月14日に、湊川での最初の授業「人間について」を行う。4月21日から30日まで再訪し、5月にも3回目の訪問をし、授業をする。8月10日には、ライフワークとするソクラテスについての授業を、芦屋市のルナ・ホールで行った。湊川入りの間、大きな出来事が重なる。2月8・9日に、那覇の久茂地小学校で授業「人間について」の記録映画を撮った。4月14日には、参議院文教委員会で、試験制度いじりを批判し、学校が教育を「回復」すべきと説いた。8月4日の「教授学研究の会」大会で、授業の創造とともに進めてきた斎藤喜博と「留別」する。湊川の記録が刊行されたのは、1977年11月であった。憑かれたような勢いを感じる。

林竹二資料の一部を、4月から図書館2階の「教育実践資料室」で公開する。教職大学院生が「子どもから学ぶ」拠り所として活用することを願う。

（教育臨床研究センター）

特集記事：教職大学院と図書館 ～現職教員にとっての～

## 僕の図書館利用法

市岡良庸

2008年4月。僕の居場所は大学図書館であった。大学に着くとそのまま図書館へと向かう。入り口から一番遠くの、一つ一つ間仕切りのある小さな机がお気に入りの席だ。椅子の上にカバンをおくと、すぐさま書棚に向かう。この時間がたまらない。書棚を眺める。題名にひかれる本を手にとってみる。まずは、まえがきを読み、ついで目次、それからあとがきを読んで、奥付にぱらっと目を通す。そうすると、著者のいいたいことが多少はわかってくる。感じるものがあればそのまま机にもっていき、午前中は読み耽る。ゆったりと流れる贅沢な時間。大学図書館は、僕にとって参考書付きのゼミ室であった。

図書館に行く目的は二つあるだろう。一つ目は、自分の仕事に必要な資料を集めるとき。二つ目は本を読みたいという自らの欲求を満たしたいときである。僕の場合、前者の方が圧倒的に多かった。教材開発のための資料を集めたり、指導案を書く上で参考になる図書を探したりした。そこで知識なり考え方なり有益な情報を探していたのである。図書館はまさに「知識の宝庫」であった。この目的からすると、図書館の本の読み方も違って来る。1冊の本から、いかに効率的に必要な部分を見つけだすか、ということに力を注ぐことになる。キーワードを決め、ページをめくりながら引っかかる文を見つける。見つければその前後の文章をじっくり読む。気になるページには付箋を入れておく。一通り読み終えたところで再度読み返し、必要とあらばメモしたりコピーしたりする。「できるだけたくさん本にあたる」これが僕の図書館の利用法である。

新任から結婚するまでの7年間は、できるだけ本は買うようにしていた。月刊誌を含

め、月に使う金額は2万円と決め、興味のひく本はその範囲内なら片っ端から買った。身銭を切って自分のものにする、読まない損をした気分にもなる。また、読みながら付箋を入れたり、マーカーで線をひいたり、ページを折ったりするなど、“いたずら”できることも魅力だ。その当時から「本は安い」というのが基本的な認識であった。本にある情報を自分で調べようと思ったら、その労力たるや本代以上にかかることは想像に難くない。しかし、今はどうであろう。本代は、息子たちの教育費にまわされ、自由になるお金はぐんと減った。そんな窮地から僕を救ってくれたのが図書館という存在であった。借りた本にいたずらすることはできないので、図書館で本を物色し、手元においておきたい本だけを買う。じっくりと向かう本は図書館が教えてくれた。

院生になり図書館の新たな利用法も学んだ。それは参考となる論文の収集の仕方である。各大学の図書館はネットワークで結ばれているので、必要な論文は大学の図書館を窓口として簡単に取り寄せることができる。論文の研究主題を設定する場合、望ましいのは研究の独自性をだすことである。先行論文を探ることにより、研究の領域、研究のアプローチ等新たな視点が得られることもあった。

本や論文は、短い時間でその内容の全体をつかむことができるという点でネット情報より優れている。また、著者の言葉の背景を探ることができるのも本ならではの。今後も、「知識の宝庫」である図書館のよさを生かし「情報の宝庫」であるネット環境とを使い分けながら、「情報を収集し活用する力」を教師である僕も付けていきたいと思う。

(教職大学院1年：名取市立那智が丘小学校)

特集記事：教職大学院と図書館 ～現職教員にとっての～

## 「気づき」を「言葉」にのせて

佐藤 陽子

教師となり16年を過ごしてきました。ほぼ毎年、新しい子どもたちとの出会いがあります。ですから、子ども理解や授業づくりは、何年たっても悩みの連続です。悩みにぶつかりながらも、同僚や子どもたちに助けられ、やって来られました。しかし、自分の限界も感じ始めていました。そんなとき、教職大学院で学ぶチャンスを得ました。

現場を離れているため、日常の煩雑さからは解放されました。その代わりに、自分が「現職教員としてどう学び、どう変わるか」という課題に向き合うことになりました。

私は、教育相談の分野で研究をしています。研究を進めるにあたり、まず、許可をいただいたある小学校に出向き、授業観察を行いました。教室は、様々な体験をしてきた個が集まり、関係をつくりながら、集団として生活したり学習したりする場です。客観的な立場として教室を見ると、集団の有り様は一定ではなく、生き物のように常に揺れ動いていました。その様子を肌で感じる経験を通して、これまで考えたことのなかった問いや気づきが、私の中に湧き上がってきました。

けれども、この湧き上がってきたものを、言葉で表現することができません。とても手応えがあるのに、何かもやもやしていて、うまく人に伝えられないのです。

そこから、私の図書館通いが始まりました。図書館の蔵書検索システムを使って参考図書を選び出し、自分の中のもやもやした感覚にあてはまる言葉を探したいと思ったのです。現場で当たり前に使っていた言葉の一つ一つを、「子どもが学ぶとは」「子どもが育つとは」「授業とは」と、もう一度確かめることに時間を遣いました。薄暗い2層書庫や3層書庫にも足を運んでみました。そこには、たくさんの研究集録や雑誌のバックナンバーが並んでいました。論文や専門書には、私の理

解をはるかに超え、読みこなせないものも多くありました。私は、さまざまな文献によって、自分が誤って理解していることや自分の思慮の足りなさに気づかされました。けれども、自分の進みたい方向や大事にしたいことが、決して間違っただけではなさそうだと教えてくれたのも、図書館の本でした。たくさんの方の研究者の取り組みや実践を重ねてきた先達の考えが詰まっている図書館は、私に1つの納得を与えてくれる場所になりました。

観察、気づき、図書館、そして、言語化と納得。この流れを繰り返し、研究を進めていくことが、「教師としての学びはどうあるべきか」を考えさせてくれました。一見、論理的で学問的な取り組みとして教育や授業をとらえていましたが、実態は、経験や感覚で行っている部分が大変多いことにも気づきました。また、1つ分かったことがあります。それは、すばらしい教育実践は、学問によって、しっかりと裏付けられるということでした。

先日、模擬授業をしました。結果は惨憺たるもので、以前と変わっていない自分がいました。それでも、1年間、現場と図書館に足を運び、仲間と語り合い、変わりたい方向やイメージを描くことはできてきました。元宮城教育大学学長の林竹二は、著書「教えるということ」の中で、次のように述べています。「教育は子供を変える仕事だといってよいとおもいますが、教えるものがまず自分を変えることによってしかなしとげられないのです。・・・子供から学ぶことができるものだけが、子供を教えることができるのです。」

4月からは現場に戻ります。新しく出会う子ども一人一人と向き合って、実践していきたいと思います。いよいよ、これからが、学びの本番です。

(教職大学院1年：仙台市立東宮城野小学校)

特集記事：教職大学院と図書館 ～現職教員にとっての～

## 教職大学院院生と図書館

二ノ神 聡

昨年4月、私は幸運なことに教職大学院の1期生として宮城教育大学に入学しました。私にとっては、はるか昔、昭和の時代に4年間通った大学にまた戻って、勉強できる喜びと、教職大学院という新しい過程に対する不安の入り交じった入学となりました。

今年度から始まった新しい制度で仕方のないことでしたが、教職大学院は様々な面で整備・充足されながらのスタートとなりました。まず、私たち32名には授業以外の時間の居場所というものがない状態が約1ヶ月ありました。学内にはいくつかの部屋で過ごすことはできましたが、その中で図書館は多くの院生が集い、研究の調査をしたり読書したりする貴重な場所でした。図書館に行けば誰かに会える、授業まで時間があるから図書館に行ってゆっくりする。新しい仲間と環境に慣れない生活の中で、図書館が私たちにとっていろいろな面でよりどころとなったことは、たとえそれが大学図書館の本来の目的から離れているとはいえ、あのころのわたしたちの生活をふり返ると否定できません。

教職大学院生としての生活が本格的に始まってからというもの、図書館は私たちの研究を進めていく上で欠かすことのできない存在でした。現場では学ぶことのできない授業についていくため、またレポート作成を進めていくためには、専門的な知識を文献から得なければなりません。また、授業で学んでいるにつれ、さらに調べてみたいことがよくでてきました。それについても図書館の専門書や資料から調べ、自分なりにまとめたこともありました。自分の研究テーマに関する研究や、今後現場に帰ったときの学習指導に役立てるため図書館を利用してきました。

大学図書館には、他のスペースと明らかに雰囲気異なる場所がありました。奥にある電動書庫です。入室するときは、学生証と交換に司書の方から鍵を借りて入室します。薄暗い廊下を進み、エレベーターで上がります。ドアが開くとそこには窓もなく、外界と断絶されたような書庫につきます。そこには電動式の書棚があり、年代ごとに多くの本が並んでいます。正直少し怖ささえ覚える空間です。

宮城教育大学図書館の他の図書館と最も異なり、すぐれている点は電動書庫に所蔵されている各世代、各社の教科書が充実しているという点です。

これまで日本の算数科教育はどのような教科書で指導されてきたのか、興味を持って初めてその部屋に入りました。しかし、その数の多さから、まず自分の子どもの頃の教科書はどんな教科書だったのか、本来の目的を忘れ国語や社会の教科書などじっくり見入ってしまいました。

いうまでもないことですが、学習指導要領の改訂に伴い、「ゆとり教育」「新しい学力観」など、指導内容は変わってきます。教科書は学習指導要領の趣旨に基づき改訂が繰り返されます。また、同じ学習指導要領の下でも、教科書会社各社で指導方法に特徴が見られ、そのねらいや意図をくみ取ることは様々な指導法を選択し、よりよい学習指導を行う上で有効です。

私の研究テーマは算数・数学でありこれまで指導内容が加除・修正が繰り返されてきた教科書です。大学図書館の電動書庫には各時代の算数の教科書がそろっており、私は昭和22年の以降の教科書を比較・検討し、その違いに驚きました。授業でも先生方は折に触れ、図書館に行き各社の教科書を見ておくこと、と話されていました。多くの専門書とともに、研究を進めていく上で教科書を見ることの大切さを感じました。

自分の課題やレポート作成のため文献から大切なことを書き写している学生の隣で、突っ伏して寝ている学生がいる。その横の窓から入ってくる風。大学の図書館には高校までの図書館にない独特の雰囲気があり、時間がゆっくり流れていました。ときには私たちに安らぎを与え、ときには学んだことからさらに学習を深めていく知識を与えてくれます。

今年度は耐震工事が入り、その良さを味わうことは十分にできませんでした。この4月からは現任校に戻って、子どもたちの指導や学校の職員としての仕事をしながらの研究という形になりますが、新しくなった図書館にまだまだ助けをもらいながら、研究を進めていきたいと思っています。

(教職大学院1年：大郷町立味明小学校)

# 「教科書展示企画に携わって」

菅原 淑子

平成17年度から始めた教科書資料の特別展示は各教科の先生の協力を得て、今では図書館恒例の大きなイベントとなっております。宮教大図書館には往来物と呼ばれる江戸期に使用された教科書から明治大正、昭和、そして現在使用中の教科書まで、小学校、中学校、高等学校を網羅して4万冊近い蔵書があり、この図書館の大きな特色となっております。これらの資料を学内に限らず広く市民の皆さんに公開したら、きっと子供のころの自分を懐かしく思い起こしたり、多くの方に喜んでもらえると思いました。しかし、実現するにはいくつかの問題がありました。展示できる場所の確保、展示ケースの調達はもとより、展示業務が日常業務に入り込むことへの理解とまわりの協力を得ることが大きな課題でした。それらが平成17年春うまく歯車がかみ合って動き出すことができました。展示をするからには、見学者が納得できる解説は絶対必要です。学術的にも責任がもてる内容でなくてははいけません。見学者が教科書の歴史を学べる場でもありたいと思いました。当事の館長に相談し、学校教育講座の笠間先生を紹介していただきそこから始まったのです。館長、事務長の理解を得て、順調な滑り出しができました。とはいえ、何をするにも初めてのことばかりで、まったく手探りで7月の展示会開催までこぎつけた感があります。広報、ポスター、パンフレット、キャプションなどは館員ばかりでなく他部局職員の協力も得て経費をかけずに準備しました。

その後、第二回（算術、算数）は数学教育講座の先生、第三回（理科）は理科教育講座の先生の協力をいただき、教科を変えて展示会を継続することができました。教科の特性を活かした展示をするよう心がけ、算数の場合は算盤・算木のレプリカを手で触って動かしてみるコーナーを作り苦手意識の多い算数をより親しみをもつよう工夫しました。理科の場合は、来場者に、よりイメージを膨らませてもらうために昔の実験装置や標本のコーナーを作ったりして関心と呼ぶ努力をしました。

第一回の展示会の際は、テレビ局が取材に来てカメラを回し地域のニュースとしてとりあげられました。また毎回、新聞では地方版の記事になり、ラジオのニュースでも報じられました。「そのテレビを見て知った」、「ラジオを聴いて知った」、「新聞に載っていたから」と一般市民の方がバスの終点である大学の図書館に来てくれて、感動の声を発したときは、やってよかった、できてよかった、と思いました。

入場者数は、第一回（国語）は1207名、第二回（算数）は904名、第三回（理科）のときは1134名でした。アンケート結果の分析から、オープンキャンパスの高校生がダントツ多いのは当然として、教育関係者や一般市民を含め、学外者が多いという結果が出ています。一方、学内の教職員や学生も多数入場し、自分の大学の蔵書にあらためて驚き感心したという意見をもらっています。以下にアンケートによる感想の一部を示します。

- 自分の小中高校生の頃の教科書に久しぶりに会えて嬉しかった、楽しかったです。
- 国の教育の方針が変わっていくごとに教科書の内容も徐々に変わっていく様子が見れた。
- 墨塗り教科書をみて当時墨を塗った子供たちの心境を考えさせられた。
- 今と比較して昔の教科書の勉強する内容の深さと幅広さの違い（レベルの高さ）を感じた。
- 教科書は使い終わると扱いが粗末になるので貴重な展示です。今後も収集などお続けください。

今年度は図書館システムの更新と図書館の全面改修工事があり、残念ながら特別展示は開催できませんでした。しかし21年度開催に向けて、社会科教科書展示の準備委員会がすでに立ち上がり、展示委員の先生たちが熱心に動き始めています。図書館職員も知識と経験を生かし先生方とがっちりスクラムを組んで準備していきたいと思っています。

（附属図書館）

# 平成21年度 図書館開館カレンダー

**4月**

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

**10月**

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

**5月**

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

**11月**

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

**6月**

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

**12月**

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

**7月**

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

**1月**

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

**8月**

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

**2月**

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

**9月**

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

**3月**

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

\*8月中旬の大学一斉休業時には閉館します。  
日程が決まり次第お知らせします。

**通常開館** 月曜日～金曜日 9:00～21:30

**土・日開館** 土曜日・日曜日 10:00～17:00

**休業期間中** 月曜日～金曜日 9:00～17:00

**休館日** 国民の祝日・本学創立記念日（10/18）・年末年始・本学学位記授与式当日

注1：平成22年1月16日～17日は大学入試センター試験のため休館します。

注2：その他の臨時休館または開館時間を変更する場合は、その都度掲示等によりお知らせします。

編集委員 附属図書館運営委員会委員 永田 英治（理科教育講座） 本間 明信（教育臨床研究センター）

編集・発行：宮城教育大学附属図書館 〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149 平成21年3月10日発行  
附属図書館オフィシャルサイトURL <http://www.lib.miyakyo-u.ac.jp/library/home.html>